



2024-25年度 RI会長  
ステファニー A. アーチック



No.3560 8月6日(火)

● 本日の卓話

## 「シンガポール国際大会報告」

パストガバナー 檜畑直尚 会員

### 「新会員卓話」

竹村浩和 会員

● 次週の卓話

## 「会員増強について」

国際ロータリー第2640地区 会員増強委員長

末吉亜矢 さん

● 先週の例会記録

✳ロータリーソング 日も風も星も

✳ビジター紹介

ゲスト 自衛隊和歌山募集案内所 事務所長  
2等陸尉 別府晴樹さん

✳出席報告 (会員数76名、免除会員1名)  
本日出席(7/23) 48名 63.16%

✳メイキャップ なし

✳S. A. A. (ニコニコ箱) 木谷聡一さん、野井和重さん、  
松井良樹さん、松尾泰明さん、  
上園芳孝さん、紀俊崇さん、  
村田弘至さん、笹本昌克さん

本日合計 ￥27,000

今年度累計額 ￥239,000

(財団寄付献金箱) 木谷聡一さん、野井和重さん、  
松井良樹さん、中野智一さん

(米山奨学会献金箱) 木谷聡一さん、野井和重さん、  
松井良樹さん

(青少年育成奨励金) 木谷聡一さん、野井和重さん、  
松井良樹さん

● 会長あいさつ

### 会長 野井和重



野井「和重」……小さいころ父  
親から外交官でNHKキャスターで  
あった平沢和重さんからもらったん  
や!と聞いていましたが、その方の

事を思いだしたのが2020の東京五輪が決まった平成25年(2013)ごろに、テレビ番組で1964年の東京五輪関連のものがあり「東京にオリンピックを呼んだ男」として紹介があった時でした。自身も1964年生まれででありますので、きっと親父もそのオリンピック開催から選んだんだろうなと思うと嬉しくなってきます。

## 8月 会員増強・新クラブ結成推進月間

(Membership and New Club Development Month)

### 米山記念奨学会 表彰

第3回米山功労者マルチプル 川端貞喜 会員

第2回米山功労者マルチプル 坂本貢朗 会員

第2回米山功労者マルチプル 上野雅巳 会員



感謝状を受け取る川端会員、坂本会員と野井会長

「和重」についてはいろんな意味が潜んでいると解釈します。「平和を重んじる」、「和を重ねる」、「和歌山で重要」……「日本国を重んじる」などなど。そうですまさに「和を以て貴しとなす」であり、「和」とは我が国を示す呼び方でもあります。

パリオリンピックが3日後から開幕されますね! とにかく日本人が「和」をもって一丸となり「日の丸」の掲揚を観て、「君が代」を聴いて涙できます事を祈念いたします。

### 新会員を推薦しよう

ロータリーに友達または  
同僚を1人紹介しよう



## 幹 事 報 告

- 例会変更のお知らせ (和歌山北RC、和歌山アゼリアRC、岩出RC、田辺RC、田辺東RC、那智勝浦RC)
- 8/6クラブ協議会 / 8/27ガバナー公式訪問  
次週、例会取り消し (次回例会、8/6)
- 回覧 和歌山新報連載記事 野井会長の今年度抱負が掲載されています。
- 回覧 ハイライトよねやま

## 委 員 会 報 告

### 環境保全・社会奉仕委員会

林 俊行 委員長

- 「ダメ。ゼッタイ。」の報告  
53,220円  
ご協力有難うございました。



### 8月プログラム予定

和歌山ロータリークラブ  
出席・プログラム委員会

8月	タイトル	卓話者
6日	「シンガポール国際大会報告」 「新会員卓話」	パストガバナー 檜畑直尚 会員 竹村浩和 会員
13日	〈例会取消〉	
20日	「会員増強について」	国際ロータリー第2640地区 会員増強委員長 末吉 亜矢 さん
27日	「ガバナー公式訪問」	国際ロータリー第2640地区 ガバナー 野村 壮吾さん

## 第1回 さんか会 開催のお知らせ

クラブ奉仕B担当理事 塚本 貞治  
親睦・ソング委員長 坂東 信幸

- ・開催日時：2024年8月27日(火) 18:30~
- ・場 所：キッチン だるま
- ・登録料：5,000円 (当日集金)
- ※8/20(火)までにご出欠のお返事をお願いします

## 卓 話

### 「令和6年能登半島地震における自衛隊の活動」



自衛隊和歌山地方協力本部 本部長  
1等陸佐 梶 憲記 さん

1月1日、能登地方の地震発生後、直ちに自衛隊は戦闘機を緊急発進させて被災状況を偵察するとともに、石川県知事の派遣要請を受けて陸海空の部隊が出動し、被災地の情報収集、人員及び救援物資の輸送等をはじめました。被災地に所在する輪島基地も甚大な被害を受けましたが、40人の隊員が避難住民約1,000人を受け入れ、夜を徹して水や食料、毛布などを配布し、また近隣の倒壊家屋から要救助者を救出しました。

多くの地域で道路が寸断され、主要な港湾、空港も使用困難となり、半島へのアクセスに制約があったことから、ヘリコプターをはじめ、艦艇、徒歩によるなどあらゆるアセットを用いて活動しました。

防災翌日の未明から昼夜を問わず懸命の人命救助捜索活動を行い、捜索犬も活躍しました。道路を埋め尽くした土砂、巨石等を撤去して様々な救援物資を各地の避難所まで輸送し、孤立住民の避難支援、誘導も行いました。避難所等では給水、給食、入浴、医療・防疫、慰問演奏など被災者に寄り添った各種支援を行う他、自衛隊が借上げた民間大型フェリーを被災者の一時休養施設として使って頂きました。また、警察、消防、国交省、NTT等の人員・車両などの輸送支援も行いました。

防災から半年が経っても未だ一部の地域に対する入浴支援は継続しておりますし、復旧・復興への道のりは遠いものと思われていますが、被災された全ての方々の安心安全な暮らしが一刻も早く戻ることを願うばかりです。



(左から) 別府晴樹さん、梶 憲記さん、野井会長